

招集年月日	平成30年9月18日(火)	本会議終了後
会 場	小美玉市本庁舎 3階 議会委員会室	
出席委員	岩本好夫委員長・幡谷好文副委員長・市村文男議長・野村武勝 大和田智弘・小川賢治・福島ヤヨヒ・谷仲和雄・木村喜一	
欠席委員	荒川一秀・戸田見成	
説明員職氏名	なし	
職務出席者の職指名	書記 富田 成	
付託事件	①議会報告会について ②バイオマスの利活用について ③その他	
	開会宣言 平成30年9月18日 午後3時15分	
幡谷副委員長	皆さんこんにちは。これより地方創生まちづくり特別委員会を開会いたします。まず岩本委員長よりご挨拶お願いいたします。	
岩本委員長	お疲れさまでございます。中途半端な時間なんですけど、いろいろ都合でこの時間開会となりました。すみません。議会報告会が終わってのはじめての特別委員会になります。議会報告会におかれましてはいろいろ市民からの要望であったりとか、いろいろ課題もいただきました。そういったことを含めて委員の皆さんと執行部のほうといろいろ協議しながら進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。	
幡谷副委員長	続きまして市村議長よりご挨拶いただきたいと思います。	
市村議長	それでは改めましてこんにちは。いままで総務常任委員会ということで、続いての委員会大変ご苦労さまでございます。議会報告会の取りまとめがメインだと聞いておりますが、いろいろご協議いただいて進めたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。ご苦労さまです。	
幡谷副委員長	続きまして、島田市長よりご挨拶いただきたいと思います。	
島田市長	それでは皆さん改めてこんにちは。大変お忙しい中、先ほどの総務常任委員会のあとにということで、地方創生まちづくり特別委員会が開催され誠にご苦労さまでございます。またそれぞれ課題を背負っての委員会ということでございまして、大変ご苦労をかけているわけでありまして。現在小美玉市の課題でもあるわけでありまして、慎重なるご意見等々いただきながら結果を出していただければ大変有り難いと思ひますし、我々も当然考えていかなければいけない問題であるわけでありまして、農業の中でも特に畜産が盛んな特にその中でも養鶏・鶏卵が日本一と、そして酪農の産地ということで生乳の出荷量が茨城県一ということでございまして、その反面このような問題があるわけでありまして、両面をよく見極めて判断していかなければいけない。またどうすべきかを皆さまに意見を聞いて我々も判断していかなければいけない大事なところでございまして、よろしくお願ひしたいと思ひます。ご苦労さまです。	
幡谷副委員長	ありがとうございます。それでは協議に移りたいと思ひます。協議の進行	

	<p>を岩本委員長よろしくお願いたします。</p>
<p>①議会報告会について</p>	
<p>岩本委員長</p>	<p>それでは協議に入ります。1. 議会報告会について議題といたします。皆さんのお手元に第4回議会報告会の回答を記載した資料があります。これを皆さんからご意見をいただきながら委員会の回答としてまとめたいと思います。</p>
<p>幡谷副委員長</p>	<p>わたくしのほうからお手元の委員会回答整理資料のほうを順に沿って説明申し上げます。まず住民側のほうからの質問に対して、バイオマスについて。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスの利用促進について平成28年6月定例会にて、当時の産業経済部長が小美玉市に最も適した手法を調査研究するとしたが、その後、調査研究について検証しているのか。 <p>当日議会側の回答です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生まちづくり特別委員会にて研修を行うなど、調査研究はしたが、採算性、事業者意向、特区など難しいこともあり、検証まで至っておりません。 ・バイオマスに関して、これからも検証に至るよう進めてまいります。 <p>右側委員会の回答です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生まちづくり特別委員会において、バイオマス関連施策について調査研究を開始したことに伴い、執行部では、バイオマスの活用について畜産事業者に対しアンケート調査を実施しました。その結果、27事業者(31.8%)から回答があり、その内25事業者(92.6%)が現在はし尿処理に問題ないと回答しております。一方、問題がないと回答した事業者において、13事業者(48.1%)は、将来的に不安があるとの回答もありました。また、市又は民間事業者がバイオマス関連事業を実施することに15事業者(55.6%)が興味があると回答しています。いずにしても、バイオマス関連施策を進めるためには、畜産事業者の意向を的確に把握するとともに、事業化の前提である地域住民の理解が必要です。今後も市議会では執行部とともに、地方創生に有益であろう事業について調査検討していきたいと考えております。執行部の回答のほうを読み上げます。 ・市では、バイオマスの活用について畜産事業者に対しアンケート調査を実施し、27事業者(31.8%)から回答を得ました。その結果、25事業者(92.6%)が現在はし尿処理に問題はないとしていますが、そのうち13事業者(48.1%)は、将来的に不安があるとしています。また、市又は民間事業者がバイオマス関連事業を実施することに15事業者(55.6%)が興味があるとしていますので、バイオマスの活用には畜産事業者の意向を的確に把握し、市の関わり方について調査検討していきたいと考えています。 <p>2. バイオマスの第2次総合計画記載について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスエネルギー政策について、昨年9月の地方創生まちづくり特別委員会にて、第2次総合計画のなかに記載したというがどこにあるのか。 ・また、記載されているのであれば、いつの時期に実施されるのか。 <p>当日回答ですが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小美玉市第2次総合計画の131ページの、リサイクルの推進の3番に、「地域循環型のエネルギーシステムの構築の向け、地域のバイオマスを活用した産業創出等、地域活性化について検討を進めます。と明記されています。と回答しました。 <p>委員会の回答です。</p>

	<p>・小美玉市第2次総合計画の131ページの、リサイクルの推進の3番に、「地域循環型のエネルギーシステムの構築に向け、地域のバイオマスを活用した産業創出等、地域活性化について検討を進めます。」と明記されています。</p> <p>また、実施時期についてですが、可能性調査の段階であり、事業化の有無も含め今後の検討課題としております。以上のような形になります。</p>
岩本委員長	<p>委員会の回答としてバイオマス関係なんですけど、この件について委員の皆さまのご意見を伺いたいと思います。もしこれでよければこのままの回答として出すことになるんですけど。</p>
山口産業経済部長	<p>バイオマスの補助事業等につきまして、できればこのあと資料を用意してありますので、そういうところで民間の事業者と一緒に勉強してできるような形がとれるものかというのでも検討していきたいなと考えているんですが。その辺でよろしくお願いします。</p>
岩本委員長	<p>2番項にバイオマスの利活用についてということで、執行部のほうから資料もありますので、具体的な話はそここのところということで。</p> <p>では、委員会の回答としてはこれで皆さんよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>「異議なし」と呼ぶ声あり</p>
岩本委員長	<p>では、委員会の回答としてはこういった回答で報告会のほうの回答とさせていただきます。さきの総務常任委員会でも私いたので話を委員長のほうにしたんですけど、要はこの間の全協で議会報告会での反省点であったりとか、取りまとめは班別ではなくて常任委員会、特別委員会でやってほしいという旨の議会活性化委員長の話だったんですけど、さきほど総務常任委員会のほうでは委員会ではまとめられないという話しに至ったんですよね。班でなければまとめられないんじゃないかというような意見だったんですけど、私らはどうするのかというのを考えなくてはならないので、皆さんの意見いただければと思います。</p>
谷仲委員	<p>私が全協のとき藤井委員長に確認して、班別ではなくて「各常任委員会、特別委員会でやってくれよ」ということで受けていますので、班は皆さまバラバラですが、3日間通しで出席されていたので、この委員会は藤井委員長の方針で反省点出せれば良いかなと思います。でないと、次の活性化委員会に進まなくなってしまうので。まあ、そういう観点からこの委員会でできるのかなと思います。</p>
岩本委員長	<p>いま、谷仲委員から提案が出ましたが、確かに25日に活性化委員会があるもので、そのときには各常任委員会・特別委員会の反省点をまとめるという委員会になると思います。出来ませんよではすまないことなので、班は違いますが記憶を辿りながら、反省点、あるいはご意見、こういうことがあれば委員の皆さまからご意見いただければと思うんですが。</p>
谷仲委員	<p>私からは、議会報告会の根本のところだと思うんですが、聞かれたことに対して、しっかりした答弁が出来ないというところを感じました。例えば、当日</p>

	<p>来場された方から、質問や要望等を受けて、それに回答するんですが、議会で今までその質問に対してどういう経緯で、どう決まったのか、そのプロセスの過程を説明した上での意見交換がほぼ無かった。それが1点。その意見交換を踏まえた上で要望を持ち帰るというプロセスがあれば良いですが、議会で私達が1年間通してやってきたことに対して、議会で決まったことに対して、こうこう、こういう事で、こうなりました。という説明が弱いかなと感じましたので、まずは根本的な答弁能力をしっかりと上げないと、議会としてのクオリティと言うものが、保てなくなるのかなと、そういう風に、私個人としては感じておりますので、個人の資質の向上が必要かなと思います。今回はそこ1点です。</p>
岩本委員長	<p>私の方からなんですけど、今、谷仲委員が言ったことはごもつともだだと思います。これは、報告会の反省点というよりも3日間の反省点ではなくて、議会報告会に至るまでと、その後の対応も大事だと思うんです。議会報告会自体、ハッキリ言って執行部に資料作らせたんでは自分で答弁できるわけもないし、だから、私が議運にいる頃には、各常任委員会特別委員会、定例会ごとに議会報告会で報告すべきことを、まとめてもらいたいということでそれは了解してなっているはずなんですけど、いつの間にかなくなっている部分があるので、そういった部分を徹底していただきたいということ。それと、資料は必ず各常任委員会特別委員会ですべてまとめていただきたいということ。議会報告会に至るまでは必ず班別会議でちゃんとまとめて予行練習なんなりして望むべきであるし、報告会後は速やかに班別会議を開いていただいて当時のまだ記憶が新しいうちに班別でちゃんと議会報告会の取りまとめ、それと反省点・課題あるいはもし良い点があればそういった部分も取りまとめていただくということをこの特別委員会からは、今回の報告会の反省点としてあげたいと思うんですが、委員の皆さんご意見いかがでしょうか。</p>
各委員	<p>「異議なし」と呼ぶ声あり</p>
大和田委員	<p>やっぱり早めに班別会議をやらないと意味がないよね。是非委員会ではそのように伝えてください。</p>
岩本委員長	<p>確かにもう2ヶ月も経っていると、思い出してとなってもね。ましては同じ班だったまだ別だと思うんだけど、それやってもせつかくのあの3日間が生きてこないと思うんだよね。それと、冒頭に谷仲委員が言ったように、各々が一年間の活動ぐらいはちゃんとプロセスを踏まえて発言できる議員でなければならないと思うので、そういった部分も含めて。では、地方創生まちづくり特別委員会の議会報告会の反省点というのはこういうことでよろしいですか。</p>
各委員	<p>「異議なし」と呼ぶ声あり</p>
岩本委員長	<p>では、こういう形で伝えさせていただきます。</p>
<p>②バイオマスの利活用について</p>	
岩本委員長	<p>では、2番項バイオマスの利活用について執行部のほうからご説明お願いします。</p>

<p>矢口農政課長</p>	<p>それではわたしのほうから若干説明させていただきます。まずは皆さんのお手元にある右肩に資料1と書いてある資料をご覧ください。家畜排せつ物を利用したバイオマス発電に関するアンケートの結果ということで、先ほど議会報告会の回答の中で使われている根拠というのがこのアンケートでございます。このアンケートを取るに至ったのは、特別委員会の中でまずは農業者の意向を確認しろというような結論からこのアンケートを実施したものでございます。1. アンケートの概要</p> <p>(1) 対象事業者数と回答事業者数ということで、小美玉市内に事業所を持つ酪農とか採卵鶏、養豚全てを含めて85の事業者を対象に実施いたしました。その中で回答いただいたのは27事業所ということで、具体的にみていきますと、3番の採卵鶏ここについては13事業者のうち7ということで53.8%約半分が回答いただいていると。しかし酪農になると39.4%、その他については1割台ということで、全体としましては31.7%、アンケートの結果としては低いほうかなという結論です。</p> <p>(2) 実施期間につきましては、平成29年12月8日から12月20日まで。</p> <p>(3) 実施方法は、アンケート用紙を郵送しましてFAXで回答を受けておりますが、その回答にあたっては無記名というような形になっております。</p> <p>(4) 結果に対する所感ということで、ざっくりこの結果をみるとまずは現在堆肥を作ってそれを自分で活用したりして92.6%の方がいまのところは問題は特になんだというような回答をいただきました。</p> <p>次のポイントとしては、バイオマスを活用して発電等については55.6%半分の方が興味があるというような結果をいただいております。具体的に見ていきたいんですが、まずは2ページをお願いします。2ページの2つ目の質問でいまの家畜排せつ物の処理方法と割合を教えてくださいということで、これをみると81.5%の事業者が堆肥化をしてというようなことですが、3番の野積み・素堀りここでいくつかの事業者が回答しておりますので、いわゆる不適切な処理もまだあるんだという結果は見えてきます。3ページのほうで、堆肥化したものの利用方法ということで、牛を飼っている農家の方はほとんどが自家利用で堆肥を使っていると。ただそのほか、にわとりであったり豚などの方は販売しているということで、その販売がなかなか苦労しているというようなお話でございました。質問の4番は、現在家畜排せつ物や利用に問題はありますかということで、1番と2番これをあわせて25になるんですが、92.6%の方はいま現在は問題は特になんだということですが、そのうちの13人48.1%の方は、いまは大丈夫だけど将来はちょっと不安だというような結果でございます。</p> <p>次の4ページでございますが、質問の5つ目、家畜排せつ物処理の問題点はなんですかという質問に対しては、やっぱりというかコストこれがかかると。それと近隣への悪臭対策というような結果でございます。質問の6つ目、処理した家畜排せつ物の問題点としましては、これもさきほどと同じように周辺住民からの臭いの相談というのが1番多く回答されております。5ページのほうの質問の7つ目、これがバイオマスを活用した発電等が行われた場合にその発電に家畜排せつ物を提供したいかということで、これが55.6%の方は興味があるということで、これについては全然条件等を書いていないので、なかなか判断がしづらい設問だったかなと思いますが、半分の方は興味があるというようなことでもございました。いまの質問に「いいえ」特に興味がないと答えた方は、その理由を聞いたのが8つ目の質問になります。そうすると現在の処理方</p>
---------------	--

法で間に合っているとか、もう息子が酪農を辞めちゃうんだよとかそういった状況がみえてきます。最後6ページ目なんですけど、ここはバイオマス発電について自由に書いてくださいというようなことで、まずは1番目に堆肥の運搬方法について検討して欲しいということで、運搬時の臭い対策なのかなと思われるんですが、その後の対策が必要なのかなというようなところなんです。それと蓄種問わずに豚・牛・にわとり全て受け入れてもらいたい。なるべく早く作っていただくと助かるというような形です。それとやっぱりコストの問題であったり、バイオマス発電ではなくてもいまの堆肥の処理に困っている方からは、最終処分ができればこれは助かるというような意見が出されております。ですからいまのところは何とか処理ができていたけど、今後苦情等も考えられるし、将来不安をもっているというような状況がこれで見えてきました。今後はバイオマスの利活用をどのように進めていくかということころですが、先ほどの議会報告会の回答の中にもありましたが、小美玉市第2次総合計画のほうで個別施策としてリサイクルの推進の中にバイオマスの技術がございまして、市といたしましても今後検討のほうは進めていくことになると思います。このバイオマスの利活用というのは、畜産糞尿の有効活用であったり悪臭対策として発電事業の可能性について調査、いまのところはまだ農家レベルの調査だけですが、調査をしてまいりましたが再生可能エネルギー固定価格買取制度、いわゆるFIT売電というものを活用した売電が当初の予想を大きく超えていることから毎年売電価格が下方されている状況のようです。その為バイオマス事業を展開していくには、国庫補助事業においてもFIT売電を目的とした施設が補助の対象から除外されるとかというふうに事業の内容が若干変わってきている状況です。今後小美玉市が発電事業を検討するには、最初に電気の活用方法これを明確にしていく必要があるかと思っております。その活用方法というのは大きく分けて2つでございまして、その売電をするに辺り先ほど申しましたFIT売電これを活用するのか、それともしないのかという選択視になるかと思っております。FIT売電を目的とした場合にはプラント建設に補助事業が活用できません。しかし地域内のエネルギー利用を前提にしないことから農業者の意向により事業化が可能になります。皆さんのところにカラーの資料をお配りさせていただいておりますが、まず1枚目、皆さん視察に行かれたと思っております鹿追町の資料がありますが、この鹿追町というのは上の四角の中の黄色線が引いてあると思うのですが、バイオガスによる電力は施設内で利用するとともに、余剰分は固定価格買取制度、これがFIT売電を指しております。により北海道電力に売電しているということで、鹿追町の場合は事業が早かったということもあまして、このFIT売電をしている例の1つでございまして。次にFIT売電によらない場合というのは、電力の地産地消を図る為地域ぐるみの取り組みが必要になりますので、農業者のみではなく地域全体で事業を実施する必要があります。また小売電気事業者の設立など多くの検討事項が必要になります。資料2枚目と3枚目これが北海道の中標津町でございまして、中標津町では平成29年度にバイオマス産業都市の選定を受けておりまして、今後このバイオマスを活用したまちづくりというのが進められていくようございまして。この中標津町の取り組みがまさに地域での活用を前提とした仕組みになっておりまして、3枚目の絵コンテを見ていただきたいのですが、丁度真ん中ぐらいに飛行機の絵がございまして、周辺のバイオガスプラントで作った電気というのを、中心市街地や中標津空港ここで活用していこうというような計画になっているようです。これというのはいわゆるFIT売電による売電ではなくて、地域での地産地消というような事業で動いていくと、しかし中標津町面積

	<p>がかなり大きくて小美玉市の4倍ちょっとあるかと思うのですが、その為このバイオガスプラントというのかなり数が多く作られる計画のようでして、一部のバイオガスプラントでは全量売電というような計画もなされているようです。中標津町でも状況というのは小美玉市と同じような状況でございます、この構想の目的というのは、糞尿処理労働の軽減、それから空港周辺の家畜糞尿悪臭軽減とか小美玉市に似たような状況なのかなということが考えられまして、これがエネルギーの地産地消というような計画のようでございます。こういう例を参考にしながら市といたしましては、今後も事業の資本の検討など継続して調査をしていく必要があるのかなと考えております。畜産糞尿有効活用とは悪臭対策としてそれだけを目的に事業していくのか、それとも地域のエネルギー一貫システムの構築の為に事業をやっていくのかというようなことを含めまして、調査検討をしてみたいというふうに考えております。それから中標津町のこの事業の実施にあたっては、ここに書いてあるのはまちとかJA、酪農家、北海道立総合研究機構で構成するというような協議会を設置しているようでして、さきほど発言がありましたようにこの中に民間事業なんかも入れてやっていくことも可能だと思いますので、そのような形で事業主体を決めるというようなやり方もあるのかなというふうに考えております。以上でございます。</p>
岩本委員長	<p>いま執行部から説明がありました。委員の皆さん何かご意見がありましたら挙手をお願いします。</p>
谷仲委員	<p>私のほうから平成28年の鹿追町視察を踏まえながら何点かお尋ねして進めていきたいと思っております。鹿追町の場合は、ジオパークグリーンツーリズムのジオパーク認定にあたって家畜糞尿の臭気対策というところも目的の1つになっているかと思っております。要は、グリーンツーリズムで来たお客さんが臭いがするというので、それを何とかしないといけないというところ。さきほど説明であったように、FITの早い取り組みでいま売電というところも鹿追町のほうはやっているところかと認識しております。この鹿追町でプラント建設、多分国庫補助と地債ですね。それでプラントを建てたという経緯があります。いまのお話でこのFIT売電が国庫補助対象外というお話しがあって、プラント建設に補助事業の対象とならないというところ、ここのところはなかなか押さえとかなければいけないところだと思います。それで選択視としていまの説明で鹿追町のFIT売電鹿追町、もしくは電力の地産地消でここに臭気対策等中標津というこの選択視2つありますので、こういうところでしっかり議論していかないとなかなか方向性をどうするかというところだと思います。ここの執行部の回答にもありますように、畜産事業者の意向を的確に把握し市の関わり方ここがポイントになってくるかなというところで感じているところでございます。以上です。</p>
岩本委員長	<p>ありがとうございます。ほか意見ありますか。</p>
福島委員	<p>今後このバイオマスに関連した事業どういうふうに展開していくか。やっぱり一番初めのアンケートが基礎にはある程度なると思っています。と言いながら、アンケートが実際に回答者数が31%この数字をどうみるかということですね。現実的にこの数字というのは、ある程度対応している農家さんではないかなと。回答をよせていないのは困っている人たちは回答しづらいのではないかな</p>

	<p>というそんな、悪く言えばそんな読み取り方なので、そこでこの結果をもとにということはどうするこうするということはまだ早いのではないかなという気がするんですけど、本当にこういうことを今後進めていくには実際にもっと多くの方の業者がいるし、もっといわゆる住民の方がどうそれを考えていくか、それからこれを市で行うには先ほどいろいろ問題があるということから、もうちょっとここに書いてあるとおりの確に把握し市との関わり方について調査検討していきたい。現状はこのままこの状況がいまのところは最大の考え方かなっていう気がするんです。ほんとに非常に大事だけれどもじゃそれを進めるかというともうちょっとしっかりと調査研究しないと市の関わり方も大変じゃないかなという気がいたします。わたしの単なる感想です。</p>
岩本委員長	ありがとうございます。ほか。
山口産業経済部長	<p>確かに今回のアンケート調査回答率31.7パーセントということで、的確な農家の意見というのが聞いているのかということに我々も疑問がありますので、今後よりの確に農家の意見を聞く為にできれば聞き取り調査を実施して、そのうえでまた畜産農家の抱えている問題点なんかを課題整理していきたいと考えております。</p>
岩本委員長	ありがとうございます。
野村委員	<p>山口部長だいたい酪農の場合にはもうほとんど自分のところで使っちゃうというわけ酪農とかは。そうすると、どこをやるかという養豚とか鶏それは自分のところでやることは出来ないの。肥やしにするだけならば。それで売るならば。だけどバイオで電気をとると、これやるとすれば市長大変なことだなこれは。ただ作れば加入してくれる人は多いと思うんだよな。そういうことで慎重にしたらいいと思いますよね。</p>
岩本委員長	他にございませんか。
幡谷副委員長	<p>皆さんいろいろご意見ありがとうございます。私が言うのも何ですがありがとうございます。このバイオマスがいま市長からお話し出たように、初期投資、コストが莫大に係るわけですよ。いま国のほうではいわゆるFITという話もあるわけですけども、ほぼそれが縮小されていくと。先進国がいまドイツが一番進んでいると言われてます。これは各農家さん事業者が個別にバイオマス事業を行っているというのが現状だそうです。1万人にもものぼるバイオマス施設の数があるそうなんですけども、そういった方向も我々研究して各事業者で、もしくは民間でやってもらうのがこれが一番いいわけですから。どういったものがいいのか、それと、わたし宮田はいろいろ問題がある地域かなというんですか、ほんとに臭いの問題もここ実は10年以上事業者と協議を毎年1回やっているわけなんですけども、事業者は対応しているとはいいつつ臭いがあまり変わっていないのが実情なんです。そういった中で本当に臭いがきついですよ。茨城空港周辺も市民の方からも苦情というか相談ごとがあるかと思いますが、ほんとに臭いがきついですね。そういった中でそういった臭いの軽減で手段のひとつとしてこういったバイオマスという話し伺っていますが、何か対策がないのかこの中でもお話しができればなというふうにもわたしは考え</p>

	ております。こちら執行部の皆さん頭を悩ませるところかと思いますが、わたしはアドバイスのものができたらなおいいと考えております。以上です。
岩本委員長	ありがとうございます。
谷仲委員	参考までにお尋ねします。PFIとかいう手法というのはこういうものに該当するかどうかという、素人的な意見を申し上げます。
山口産業経済部長	PFI民間のお金を活用して一般的には市が土地を用意して建物をPFIで企業が建ててそこで何かをやるというようなのが一般的なのかなと思うのですが、それとバイオマスを組み合わせた場合に売電価格の問題とか、堆肥がどのような形で販売できるか、そういった採算性をまず企業というのは考えて事業始まると思うんです。その辺もよく研究してみないと手を挙げてくれる事業者がなかなか出ないのかなと。そのためにも基礎となる資料をしっかりと専門家なりそういった方と一緒に作って、それに興味をもつ企業があれば市が独自でやるのはなかなか難しいので、幡谷議員がおっしゃるように民間がやってくれるのが一番いいのかなとは思っていますので、そういう方向で検討していきたいとは考えております。
小川委員	地道に調査検討をしていくということが大事かと思うのですが、県内あるいはこの近隣でこういう事業を進めているところはどこでしょうか。
矢口農政課長	発電に限らずの事業になっているのですが、そういうバイオマスを活用した事業を展開する場合に、バイオマス産業都市というものに認定されると有利な補助事業を活用できるということもございまして、バイオマスを活用している多くの市町村はそのバイオマス産業都市の認定を受けているようです。これが茨城県内では牛久市が認定しておりまして、牛久市の取り組みは使い終わった食用油を再生して公用車の燃料にしたりするいわゆるバイオ燃料というんですかね、その製造をしてこの事業を展開しているようです。全国的にはかなりの事業者がございまして、全部で79市町村がバイオマス産業都市の認定を受けておりまして、この中には畜産糞尿を活用した発電を、先ほどの鹿追町もそうですがやっているところがございまして、発電しているのは全部で29市町村でございます。以上です。
小川委員	ありがとうございます。29市町村売電しているということなんですが、幡谷副委員長内原でやっているという話を聞いたんですがその辺聞いていませんか。
幡谷副委員長	内原ですか、私は。
小川委員	聞いていない。
幡谷副委員長	認識していません。
小川委員	了解です。

岩本委員長	ほか。
大和田委員	鶏卵が日本一だと言うんですけど、大手の養鶏所が何社かあるんですよね。そういうところの回答はバイオマスに関して関心をもっているか把握していれば教えていただきたい。
矢口農政課長	実は、このアンケートというのは無記名でやってしまいましたので、事業者がどこという特定ができておりません。ただ養鶏協会という団体がございまして、その集まりでイセファームとか愛敬園の方とお話しする機会がございまして、そのときにはそのバイオマス云々の話しではなくて、堆肥を作っているんだけどなかなか販売に苦労しているんだというお話しは聞いておりますので、大きい会社はかなりの量になるので、かなり販売には苦労しているのかなというふうに感じました。以上です。
幡谷副委員長	いまの話しで宮田地区が毎年話し合いをしているというのが森屋農場さん、現イセファームさんですね。日に約80トンからの鶏糞が出ると。堆肥化を進めているんですが追いつかなくて割合は覚えていないんですけど、廃棄処分しているということなんですね。廃棄処理として処分していると。それも追いつかないので数万羽から縮小をしたという経緯がこれ昨年なんです。追いつかないということは生産を縮小してもらうしかない。じゃないと宮田の要望に答えられないという昨年そういう経緯がありました。廃棄しているという背景もあるということのお話ししました。
岩本委員長	もともとこれバイオマスの話が持ち上がってきたのも特に鶏糞の場合悪臭ですかね。糞尿の悪臭とそれに対する対策に対してなかなか追いつかない部分があるんで、バイオマスでやれば当然設備投資は必要だけれどもそれなりの採算があつてというようなところもあったような気がします。あとは事業者によって相手方があるんで、ただアンケート見ても96.2%の事業者が家畜排せつ物の問題はないと言っているけど、事業者はそうかもしれないけど周りに住む方が例えば騒音対策というのはかなり優遇されていると思うんだよね保証金が出たりとか。悪臭に対しても住民からすれば特別快適な生活空間でなくても最低限の生活環境は欲しいというのは誰もが思うことだと思うんだよね。当事者じゃないと分からないことってあると思うんです。小美玉市に合併してもそれまで私は百里の騒音に対してあんまり関心なかったし、そんなあれほどのという気はなかったんですよ。ただ実際あの騒音に触れてみるとこういうところで生活している人は本当に大変だなと思うし、あとはこの悪臭もそうです。実際行ってみると車の窓を開けただけでもほんとに凄い悪臭がします。そんな中で毎日生活しているんだからそれはそれは大変な思いをしているんだろうという気持ちもありますよ。だから執行部としての関わり方も大変難しいと思うし、あとは相手方がいることなんで、非常にデリケートな問題かなとも思うんだけど、やはり議会としてもあるいは行政としても住民の最低限の生活の保障は何等かの形でできないのかと思う部分もあります。いろいろ今日も意見いただいたんで、もうちょっと踏み込んで調べていただければこのアンケートに対してももうちょっと積極的にやり方も考えていただければ助かるなという部分と、ちょっと市長にお伺いしたいんですけど、先日ある知り合いの方から排せつ物にこれは豚でも牛でもにわとりでも餌にちょっと混ぜると臭いがしなくなるんだ。それに加えて例えば肉質とか牛乳の質が出が良くなったり卵も良くなるんだと

	<p>いう能書きがあるんですけど、その肉質が良くなるとか牛乳が良くなるというのはこれは私ら確認していないんですけど、実際それを10何年使っている酪農家の方のところに行ったらば全くと言っていいほど臭いがしないんです。ただきっとそこは何頭も飼っていないのできっとコスト的にあっているのかなと思うんですけど、実際これが例えばにわとりとか豚とか飼っているところにその業者さんに一企業なんで行政でそれを推すのもいかなものかなと思うんですけど、そういったところ例えば知ってもらって、飼料を買う場合には少しの補助が出るとかそういったことはできないんでしょうかね。悪臭対策を。</p>
岩本委員長	<p>もし例えばそういったのが可能であれば。その家は2、30頭だったんですけど、これが何万羽、何百頭となるとコストの問題があると思うんですけど、例えば臭いは激減しますよね。全くと言っていいくらいしないんです。こういったことを例えば少し補助することが行政でできれば何かどこから補助金引張ることができれば少なくともいまの現況の住民の悪臭対策が大幅に改善するような気がするんですけどね。</p>
野村委員	<p>市のほうの補助を出すという場合に、そういう業者から0.1%でも売上げの中でそういうものを出すような仕組みを作ったほうが返っていいんじゃないの。迷惑かけているんだから養鶏場なら養鶏場、養豚場なら養豚場そこから5万円でも100万円でも頭数とか端数によって貰えるようにして。あんまりばら撒きばかりやってもしょうがないような気がするから多分納得するんじゃない周りの人からとなれば税金払うんならばそれだけ。</p>
岩本委員長	<p>おそらく臭気対策に対してはどの事業者もある程度考えてやっていると思うんで、その酪農家の人は頭数が少なかったから10何年使っているというんですけど、きっとその飼料餌に混ぜて臭いがなくなるということを事業者が知らないとは思わないだよね私が思うのは。ただきっとコストに係る部分があって手をつけていない部分があるんじゃないかなと思っているんですけど、どうなんだろうな行政で指導するというのは難しいんだろうな。</p>
山口産業経済部長	<p>現在、実は県央農林のほうなんですけど、小美玉市のほうで今回は空港周辺等ということで、まずは空港周辺イメージが空港を降りて臭いのイメージがということもあるもんですから、それに対する臭気の対策協議会というものを近々発足する予定です。その中でいま言ったような餌に混ぜて臭いが消せるとか、家畜場を衛生的に保っていけば臭いが減ったりとか、資機材そういうものでも消臭効果があるものあると思うので、こういったいろいろ県と市とそれからできれば畜産農家の方も一緒に入ってもらってそういった補助制度も県のほうともできればいいのかなというところで、いまのところ補助が付くかどうかは言えないんですけども、今後協議していく中でそういう話も出てくるかと思いますので、何かしらの結論が出たときには報告させていただきたいと考えております。</p>
岩本委員長	<p>ありがとうございます。12月の定例会でも特別委員会を予定しているので、またそういう時に進捗状況であったり報告できればお願いします。そのほか皆さんからご意見等なければ。</p>

野村委員	この件ではなくていい、その他で。市長お願いがあるんだけど、あそこまで頑張って空港道路作ってもらったけど前回幡谷議員が言ったように、あそこに市民からメロンロードではなく茨城空港に関わる道路の名前をひとつ募集したらどうだろうか。メロンロードでもしょうがないからな。せっかくの空港だからそれを見出すような道路作りに市民から募集してみんなから注目を浴びるような名前に命名をしましょうよ。これ金がそんなにかからないから。ひとつお願いします。
岩本委員長	要望でいいですか。
野村委員	要望で。
岩本委員長	よろしくお願いします。 その他のほうで皆さんからあれば。 ないようですので協議を以上で終了させていただきます。
幡谷副委員長	これもちまして、地方創生まちづくり特別委員会の方を閉会いたします。 ご苦労様でした。
午後4時15分	